

「イスラエル建国史」

32 英委任統治下のパレスチナ 9

『つのぶえ』紙に掲載された「イスラエル建国史」の過去記事は、ハーベストタイムのウェブサイト (<http://www.harvesttime.tv/news-topics/history-of-israel/>) で公開しています。

分割計画を放棄したイギリス 絶望の航海

1939 年 5 月には、ユダヤ人難民を排除する象徴的事件が二つ起きた。第一はセントルイス号事件、第二がマクドナルド白書の発表である。

5 月 13 日、客船セントルイス号（船長：グスタフ・シュレーダー）が、ハンブルクを出港した。行先はキューバ。乗客 1935 人のうち 936 人が第三帝国ドイツから逃げるユダヤ人であった。5 月 27 日、船はハバナに到着した。しかし、ユダヤ人乗客は 20 名を除き全員が上陸を拒否された。上陸許可書を無効にしたのがフレデリコ・ラレド・ブルス大統領で、キューバ人の労働市場を奪うというのが無効化の理由であった。大統領は 100 万ドルの保証金を要求した。救援にあたったジョイントが、調達に奔走したが、そのような大金を集めるのは不可能であった。

シュレーダー船長は、ユダヤ人乗客の窮状に同情し、マイアミ沖を超低速で航行する間、ジョイント^{きゅうじょう}*1 が移民の特別枠を求めて、アメリカ政府と交渉した。しかしアメリカ政府は受入れず、船は沿岸警備隊に追い払われた。

当時特別の許可証がなくても行けるところがあった。上海の共同租界である。シュレーダー船長は、親会社のハンブルク・アメリカ海運に上海行きの許可を求めたが、ユダヤ人のため燃料の無駄使いは認めないというのが、会社の回答であった。

船は出港地に戻った。ジョイントの奔走で、イギリスが 287 人を受入れ、残

る 649 人はフランス、オランダ、ベルギーで上陸を許可された。しかし、このヨーロッパ大陸下船組は、4 名を除きナチドイツに殺されてしまう。

キューバの上陸許可書は、出入国管理長官マニエル・ベニテス大佐が、この海運会社に売りつけたもので、同社は 1 枚 235 ドルでユダヤ人に転売したのである。ユダヤ人はこれ以外に運賃 262 ドルを払っていた。ところが、その許可証は出港 8 日前に無効になっていた。知らなかったのは船長とユダヤ人乗客だけであった。まわりには、わらにもすがる人々をくいものにする人間が、沢山いた。

バルフォア宣言に訣別したイギリス

セントルイス号が絶望の航海に出た 4 日後の 5 月 17 日、英政府がマルコム・マクドナルド植民地相の名で、白書をだした。バルフォア宣言に訣別する政策として知られる。前年 11 月のセントジェームズ会議で、英政府の示唆していたことが、現実のものになってのである。一般にマクドナルド白書として知られ、「パレスチナのユダヤ人口が 45 万に近づき、総人口の 3 分の 1 を占めるに至った現在、ナショナルホーム建設を支持するバルフォア宣言の公約は達せられた」とし、次の 3 つが政策の骨子になっていた。

(1) 移民数を、1944 年迄の 5 年間で 5 万人に

【これまでの流れ】

1948 年のイスラエル建国は、空白地帯に突如降って湧いたようなものではない。イスラエルが建国されたパレスチナの地には、建国のはるか以前からユダヤ人共同体が存在し、祖国建設を目指して祖先の地に移住したユダヤ人たちの地道な努力があった。

1930 年代中頃から十数年間は、これまで着実に発展してきたイスラエルの建国運動にとって、まさに八方ふさがりのような時代になった。パレスチナではアラブの暴動が続き、その影響を受けてイギリスの政策が後退し、ヨーロッパではホロコースト (1933～1945) の時と重なり、ユダヤ人社会が絶滅の危機に直面した。こうした中、ユダヤ人難民は決死のヨーロッパ脱出を試みるが、その行く先々で大きな壁が立ちだかっていた。

限定し、難民用の特別枠を 2.5 万人とし、合計 7.5 万に制限する。非合法移民が摘発されれば、その分を割当て枠から差しひく。又、1944 年以降の移民は、アラブ側の同意を必要とする。

(2) 10 年をめどに、アラブ・ユダヤの複合国家を建設する。政府人事は両社会の人口比率をベースとした配分とする。

(3) ユダヤ人の土地購入を制限する。この方針に基づいて、サー・ハロルド・マクマイケル高等弁務官の名で、土地売却規制法 (1940 年 2 月 28 日付) がだされた。

ヨルダン川の西域 (ネゲブ砂漠を含め 671 万 7250 エーカー) が土地購入厳禁の A ゾーン (全体の 64%)、高等弁務官の特別許可を必要とする B ゾーン (同 31%)、土地の購入ができる C ゾーン (同 5%) の 3 つに分けられた。C ゾーンは沿岸地帯である。

ヨーロッパで何万何十万とユダヤ人難民が発生し、その一方で多くの国が受入れを拒否している現在、唯一の希望の地はパレスチナであった。特別枠を含



グスタフ・シュレーダー船長



客船セントルイス号。ハバナ港にて。

め1年に1.5万人は、文字通り焼石に水であった。更に、アラブ人社会の同意という条件は、「拒否」を意味した。更にまた、アラブ人が暴動を起してユダヤ人を排除してきた経緯があるのに、複合国家でうまくいくわけがなかった。そして、人口比率による国家運営であれば、ユダヤ人社会はいつまでも少数派の地位におかれることになる。

エルサレムのシオニスト執行部は、「エレットイスラエル（イスラエルの地）のバイオニア達は、3代にわたり荒地をよみがえらせ、その能力を発揮してきた、今後も勇を鼓して移民事業を遂行し、ナショナルホームとユダヤ民族の自由を守り抜く」とする声明をだした。

ダニューブ川をくだる難民達

第二次世界大戦が始まると、ドイツ・オーストリアからの陸上脱出は、物理的に不可能になった。そこを何とか突破しようとして考えられたのが、ダニューブ川をくだる方法である。1939年末にそのルートで脱出した人々がいた。4隻の川船に合計2,400人がすし詰め状態で乗っていたが、船に航洋性はなく浸水がひどくなり、ルーマニアの領内水域で立往生した。冬の厳冬で食糧も尽き、このままでは、全員死亡は必至である。脱出を組織したNZO（新シオニスト機構、ジャボチンスキー派）は、ジョイントと一緒に奔走し、イギリス政府を説得して、移民枠に入れて貰うことができた。ジョイントはトルコでザカリア号をチャーターし、船は1940年2月1日ルーマニアのスリナを出港、2月14日にハイファに到着した。

しかし、ナチスドイツが1941年4月にユーゴスラビアとギリシアに侵攻すると、ダニューブ川ルートも難しくなった（例えば、ベオグラードの東南東145キロメートルの河畔クラドボで立往生した難民達は、1941年秋に全員殺された）。

困難をきわめる難民救出

非合法移民船は、数々の悲劇を生んだ。1940年11月初旬、難民船が2隻ハイファに到着した。ドイツ・オーストリアの難民1,100名を乗せたパシフィッ

ク号と、チェコスロバキアの難民700名乗船のミロス号である。英当局は上陸を許さず、モーリシャス島へ移送すべく、仏船籍のパトリア号に難民を移した。すると11月24日に3番目の難民船アトランティック号（1,700名）が到着した。英当局はこの難民もパトリア号へ移そうとした。島送りを阻止するハガナ^{*2}は、パトリア号の船底を破壊した。しかるに爆薬の量が多すぎて、船は沈没、難民202名、乗組員と警官50名が犠牲になった。英当局は、移民枠から差引く形でパトリア号に集めた難民の上陸を許した。しかし、3番船アトランティック号の難民は島送りとなり、戦後1,310名がパレスチナへ送り返された。

難民船は、もうひとつの象徴的悲劇を明らかにした。それは、難民を事務手続き上の問題として処理する態度である。

パトリア号事件の後、350名を乗せた小型老朽船サルバドル号は、ハイファに到着したものの、移民枠の対象外として追い払われ、出港地のブルガリアへ引返す途中、浸水がひどくなりダーダネルス海峡で沈没した。それから1年後の1941年12月12日、難民769名が乗る石炭運搬船シュトルマ号が、ルーマニアのコンスタンツを出航し、やはり浸水で続航できず、イスタンブールに着いた。トルコ当局は、パレスチナへの移住許可書がないことを理由に上陸を認めず、ユダヤ機関が英当局と交渉を続ける間、1942年1月19日、トルコ当局は、沈みそうになっている船を沖合いへ曳航して放置した。船は国籍不明潜水艦に雷撃され、難民諸共沈没した。

英委任統治下パレスチナへの非合法移民（アリア・ベツ）は、1938年3月のアンシュルス（ナチドイツによるオー



ハイファ沖に沈むパトリア号

ストリア併合)を契機に、救出作戦の様相を呈してきた。

救出は3つの組織でおこなわれている。第一は個人を中心とする脱出、第二が前出NZO、第三がヒスタドルート（労働総同盟）を中心にユダヤ機関が間接的に関与したモサッド・レ・アリア・ベツで、こちらは1938年秋に発足した。

第二次世界大戦中も、ルーマニア当局はユダヤ人の非合法移民に見て見ぬふりをした。第二次世界大戦勃発まで、41隻が、ルーマニアそして一部はブルガリアからパレスチナへ向かった。内訳は、モサッド16隻（6,000人）、NZO16隻（6,000人）、個人の組織9隻（8,500人）である。

大戦中は、1944年末までに26隻が出港し、内5隻が航海の途中で沈没したが、1万6,500人が助かった。ほかに、ギリシアから小舟でトルコへ渡り、陸路パレスチナを目指した人々もいた。図表はルーマニアとブルガリア経由で来た非合法移民の数である。【次号へつづく】

年	合法	非合法
1939	16,405	11,156
1940	4,547	3,851
1941	3,647	2,239
1942	2,194	1,539
1943	8,507	—
1944	14,464	—
1945	12,751	370

【出典】Y・ドミニッツ「アリア」

単位：人

^{*1} ジョイント：アメリカ・ユダヤ人共同配給委員会。

^{*2} ハガナ：かつて存在したユダヤ人軍事組織。イスラエル国防軍の基礎となった。

1937年長崎県生まれ。

ユダヤ・中東研究家 滝川 義人

早稲田大学第一文学部卒業。イスラエル大使館チーフ・インフォメーション・オフィサー（1968～2004）として勤務。

現在、MEMRI（メモリ、中東報道研究機関）日本代表。ユダヤ、中東研究者。

主要著書：『ユダヤ解説のキーワード』（新潮社）、『ユダヤを知る事典』（東京堂出版）など多数。

